

令和 3 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。□ 評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

尼 崎 市 立 尼 崎 高 等 学 校

令和3年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

一人ひとりの生徒を大切に、充実した学習活動を生き生きと展開し、自主自立の精神に富んだ心豊かでたくましい人間の育成を目指す。

学校・家庭・地域との密接な連携により、生徒の希望進路実現を図り、信頼される学校づくりを推進する。

学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		2.9	3
取組	成果	課題と改善策	
・classroom(google for education)アカウントの移行を全生徒に行い、システムを構築した。 ・欠席者の学力保障や日々の授業の補充のため、動画等を用い単元内容の理解を深めたり、zoomを用いた遠隔での特別授業などを行った。成績不振の生徒のノートを授業ごとに提出させ、授業内容の定着を促した。 ・保健体育の授業においてはICT関連教材、器具(InBody・ダートフィッシュ等)を積極的に活用し、情報を活用した授業展開を行った。 ・発達障がいグレーゾーンの生徒や学習障がい傾向にある生徒について、学年や教科と情報を共有し、担任による学習計画作成や放課後学習の取り組み、SC・SSWとの連携、クラブ顧問と保護者の面談など多角的なサポートを行った。	・言葉より映像の方がわかりやすく、生徒達の理解力向上につながった。 ・授業の中で生徒が主体的に考える時間を作ることができた。 ・動画配信だけでなく、meetを用いた中継など様々なリモート授業の形式を活用出来た。 ・体育の実技の中で生徒のフィードバックで活用した。自分の動きを動画を通じて確認することができた。また、次に行う際に動画で確認したところを修正する活動が見られた。自分の身体を上手く動かすことの難しさを楽しめた。 ・コロナ禍において対話やグループワークが制限されていたため、「対話的で深い学び」に関しては部分的な取り組みとなった。 ・会議の内容を全教員で共有することで、不登校傾向の生徒の状況や、特別支援が必要な生徒の共通理解を図ることができた。また、SSWに参加していただくことで、より専門的な助言をいただくことができ、特別支援委員会などの会議も活性化することができた。	・教員によって、ICT機器の使用の有無や程度に差がある。授業準備に時間を要するので、機器の扱いについて研修が必要である。 ・動画を視聴したのは学習に積極的な生徒のみで、学力的に心配のある生徒にも届くように声掛けや内容を吟味したい。 ・個々の生徒の成長に応じた課題の提示が必要となってくると考えられる。 ・来年度、再々でアカウントが変更になることに伴い、アカウント移行をスムーズに行いたい。またgoogleアカウントの無償化が終了し、有償化になるため、アカウントによってどのような操作が可能になるのか見極め、生徒にとって有効なアカウントを選択したい。 ・ICTの活用を積極的に取り入れたいが、配布されたパソコンのソフト面の制約や教室の機材が十分に整備されていない点が課題である。 ・SCやSSWとの連携において、意見のすり合わせを十分に行う必要を感じる。発達支援に関しても合理的配慮と履修・修得との兼ね合いについて、教務規定と照らし合わせて十分な議論が必要となるだろう。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 適性育成の取組を促進し、多様性を尊重し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		2.8	3
取組	成果	課題と改善策	
・1年生では3回にわたり、企業見学を含むキャリア教育を実施した。 ・クラスやクラブ活動での生徒との面談の時間を多くとるように心掛けた。 ・心の問題を抱える生徒に対して、SSWと連携し個別の対応ができるように工夫をした。 ・さまざまな生徒指導案件の解決に向けて効果的な対応策、体制を構築する取り組みがなされるよう迅速に対応した。 ・人権学習において歴史的な問題から、学年の生徒の実態に応じ、広く情報発信と生徒自身が考えを深める場を持ち、生徒の人権意識を高める教育を行っている。	・職業を身近に感じるきっかけになり、卒業後の進路を考える上でも貴重な体験となった。 ・小さな問題のうちに管理職や生徒指導部、教育委員会と報告・連絡・相談をするようになった。家庭の問題等、ある程度関係教員が情報を共有して、見守りが出来る。 ・SCやSSWと連携することによって、本人や保護者の不安軽減につながった。 ・人権学習内容に関連する講師を招聘することにより、具体的な内容を含んだ講演会から、広義にわたる人権についても理解を深めることが出来た。 ・生徒は相手の立場に立って物事を考えたり、独りである生徒に声をかけたりする行動がみられるようになった。	・コロナ禍のため、人間関係が希薄で関係性を築くには時間が必要である。自尊感情を育み、他人に対しての尊重や思いやりの気持ち大切に成長させたい。 ・いじめを過小評価せず、見えない問題を抱えている生徒の小さな変化に気付くようにならないといけない。また生徒の問題が解決したら終わりではなく、その後の様子も経年的にみていきたい。 ・人権学習の日程に余裕がなく、生徒とじっくりと話ができない。学校行事との調整が必要である。 ・早めの対策、家庭、支援機関との連携はある程度進んだ。 ・教員の心の充実が大事である。報告書作成の増加を含む膨大な業務量に疲弊している。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活気に満ちた学校づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		2.5	3.5
取組	成果	課題と改善策	
・ICTを活用した授業改善、また来年度から始める総合的な探究の時間に対する研修、カウンセリングマインド研修等を計画、実行した。 ・地域の子どもたちへのスポーツ体験教室、あまらぶ企画、市立幼稚園ボランティア、成人の日の集いボランティアなど外部の組織(市立幼稚園等を含め)を積極的に校内に招き、学校・生徒の様子を見てもらった。 ・部活動を中心とした地域開放、地域清掃活動等を積極的に行った。	・生徒が自ら考え行動する機会を与えることができたと思う。人の前に立って話したり、イベントを企画するなどふだんの授業では学ばない体験ができた。わからないことや、できないことに対して、生徒同士の教えあいの場面が多くなった。 ・SCやSSWの研修で学んだことを実際の教育の場で生かすことができた。 ・ICTの活用については教科内で情報を共有し、有効な活用方法を研究、駆使しながら授業やクラブ活動に活用することができた。教員全体での意識が少しずつ変化し、少しでもICTを用いることや、来年度へのカリキュラムを意識した授業内容への工夫がみられる。	・地域との連携・協働が部活動に偏っているため、今後部活動以外の面での実施していきたい。 ・ICTを活用するにあたっての環境整備が不十分であり、予算面での課題がある。 ・PTAとの連携を進めていくボランティア活動や学校行事等の関わりについて、コロナ等の影響もあり実施出来ない状況が多かった。来年度に学校行事等の予定と関連付けながら計画的に実施の準備を進めていく必要がある。 ・本年度は教職員の負担が圧倒的に増え、疲弊している。それはコロナ禍での細かな疫学調査や消毒作業、授業保障のための動画作成なども要因だが、人事異動や欠員が出ている状態が継続し、教科や部署の仕事が残った教員に重くのしかかっていることも大きな要因である。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		2.6	3
取組	成果	課題と改善策	
・1年生対象に、自転車教室を実施。 ・新型コロナウイルス感染予防として、生徒自身で昼食時のパーテーションを手作りし、黙食指導につなげていった。 ・今年度はコロナ禍で防災訓練などが十分にできず、机上での訓練となった。	・自転車教室や薬物乱用防止教室など、外部機関の講演によって生徒に正しい知識や技術を得ることができた。 ・交通安全については、新たな取り組みによって、生徒の意識が向上した。 ・交通事故に関して若干の減少は見られるものの、未だ登下校時の交通事故は発生している。 ・コロナ対策としては手洗い、手指の消毒、マスク着用、換気、黙食等はほぼできている。	・防災については意識が職員も生徒も低いように思われる。あらゆる安全教育の推進を進めていくために研修や実質的な訓練等が必要だと思う。 ・生徒全員が移動する行事に併せて訓練を実施するなど、コロナ禍の制約があっても実施できる方法を見出していく。 ・自転車事故などはまだまだ無くならないので、マナーの向上などを含めて努めていく必要がある。	

教育目標 一人ひとりの生徒を大切に、充実した学習活動を生き生きと展開し、自主自立の精神に富んだ心豊かでたくましい人間の育成を目指す。学校・家庭・地域との密接な連携により、生徒の希望進路実現を図り、信頼される学校づくりを推進する。		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		2.8	3
取組	成果	課題と改善策	
・早朝・放課後の習熟度に応じた補習や進路希望に応じた補習の実施、キャリア教育や進学ガイダンス、大学説明会など行事を学年ごとに計画立て実施した。 ・1人1人とのコミュニケーションをなるべく心掛け、かつ家庭との連携もできるように生徒への声掛けと情報収集を行った。 ・地域への働きかけとして校外清掃、市尼プロジェクトを行った。	・生徒の落ち着いた学習意欲が向上し、社会にも貢献できている。 ・生徒の表情や取り組み姿勢がよくなってきていると感じている。 ・地域への働きかけを通じて、個人レベルではあるが、本校の活動について知ってもらうことができたと思う。	・生徒の自主・自立という面ではまだまだ指導していく必要がある。 ・業務を整理することで、教員が生徒と向き合う時間がより多く確保されることが望まれる。 ・様々な問題に対して正しい認識を持つ事に加えて、組織的な対応ができるような体制づくりがより一層求められる。 ・新課程の授業内容やICTの活用、共通テストをはじめ新傾向の問題、観点別評価についてなど、教科会をもって勉強しなければならぬことがたくさんある。体育科だけでなく、他教科も教科会を時間割に入れるなど、教科で研修をする機会を増やす。	

研究テーマ「ICTを利用した教育活動の展開」		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		2.4	3
取組	成果	課題と改善策	
・各HR教室に取り付けていただいたプロジェクターを活用し、視聴覚教材をより頻繁に使うようになった。 ・classroomを利用して、日々の健康観察や生徒への連絡、アンケート、授業内のデータ収集を行った。Googleフォームを用いて、アンケートや人権教育に関する事前学習、来年度の科目登録などに活用した。 ・コロナ禍で出席がかなわない生徒に授業への参加を促すため、板書の写真を送ったり、meetを使って同時配信したりした。 ・ネット環境を利用しての生徒からの課題の提出や、外部の講師とzoomやmeetを利用しての講義を行うことができた。	・生徒の中で、ICTの活用が習慣化されつつあるとがえる。 ・生徒の授業内での学びの質が、映像等視覚的資料を用いることで向上している。 ・長期による出席停止期間においても、meetでの授業参加、動画、課題配信などができるようになってきたことから、家庭学習の一助となり、生徒・保護者・教員にとって安心につながった。 ・スポーツ心理学の講義をzoomで行うことができた。	・教員自身はICTを活用したが、生徒に十分に利用させることができなかった。生徒に利用させる方法についても模索していきたい。 ・教員の中には、苦手意識のあるものもあるので、今後も研修を行い、授業研究に努める必要がある。 ・授業への取り組みとともに準備する時間をどう確保していくかが課題。 ・配布されたパソコンの制約の緩和、専用スクリーンの増設など教室の黒板の改善が必要。 ・次年度以降、BYODの環境になった際に、さらなるICTの活用や環境への適応が求められる。	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等		評価Ⅲ
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で知恵と工夫と共同で頑張っている。今後も生徒を真ん中に置き、このピンチをチャンスに変えて学校運営をしてほしい。 ・新学習指導要領「生きる力」に向け、今までと違った教育法が必要である。「総合的な探究の時間」で求められることを伝えて、生徒にきっちりと教えてほしい。 ・ICTを活用した取り組みはコロナ禍の状況下では大変有効な学習支援ツールだと思います。様々な課題があるとお聞きしましたが、来年度も引き続き積極的な活用を期待しております。 ・教員によってはICT機器等の扱いに得意不得意があるとのことですが、引き続き教員向けの研修等をしっかり行ってください。 	3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・人との交わりが希薄になっているこの頃、あたたかい相談体制や安心できる環境づくりに励んでほしいと思います。 ・人間関係の形成に向けて、多方面からの指導が必要である。時間に余裕を持ち生徒に接することを大切にしてください。 ・昨年度同様、コロナ禍により先生・生徒同士のコミュニケーションの機会が少なく、心のケアが必要な生徒も増えたかと思います。引き続き、生徒の情報共有と人権教育を強化していただき、いじめゼロの学校を目指していただきたい。 ・教員についても膨大な業務量に疲弊している状況だとお聞きしたので、できる範囲で業務改善、心のケアが必要だと考えます。 	2.6
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間を活用して、地域やまちづくりの企画提案を行うのも、若い考えが表現できるのではないのでしょうか。 ・教職員の方が忙しくなっていく一方である現状なので、家庭や地域との連携を深め、常に協力体制をとれる状況を作してほしい。 ・地域との連携・協働によるボランティア活動などコロナの影響がある中、取り組めたことは素晴らしい。 ・家庭・地域・学校の連携を深めるためにも、さらなるイベント・情報発信をしていただきたい。 	3
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な教育環境は、ハードも大切だが、よりソフト面も細やかに取り組んでいくことが生徒の力が発揮できると考える。 ・コロナ感染拡大により学校での通常業務以外で時間がとられがちだが、安全安心な環境づくりを準備し提供する努力を続けてほしい。 ・コロナの影響で防災訓練など十分にできていないとのこと、訓練を実施したとしても生徒の防災意識は低いように思うので、外部講師による研修や勉強会など新たな試みが必要だと思う。 ・登下校中の自転車事故防止についても、さらなる指導や研修などによる意識改革を願います。 	2.6
■教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の分かれ道、第一歩なので力強く生きる力を3年間で育んでほしい。授業や行事を通して身に付け、次世代を幸せに生きていける力としたい。 ・設定した目標を達成するために、教職員自身が業務の効率化を図り、時間を作成し、業務改善や生徒との時間づくりに努めてほしい。 ・生徒が相談しやすくコミュニケーションの取りやすい環境を整え、いじめゼロを目指していただきたい。 ・コロナの影響で教員への負担が大きくなることにより、生徒と接する時間が減っていくことは避けるべきだと思う。一人でも二人でも教員の増員をお願いしたい。 ・来年度も創意工夫しながら生徒の希望進路実現を目指していただきたい。 	3
■研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTも大切だが、重ねて人としての大切さも充実したい。 ・ICTを利用した教育活動を実現するために、しっかりとした準備、研修を行い確実に推進してほしい。 ・ICTの活用については発展途上で、成果も大きい課題も多々あるように思います。 ・来年度はさらなる効果的な活用ができるよう、できることから取り組んでいただきたいと思います。 	3
評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)		評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か		B
自己評価の結果の内容は適切か		B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か		B